
9. 1 1 偽造の惨事

大久保雄一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

9. 11 偽造の惨事

【Nコード】

N4683B

【作者名】

大久保雄一

【あらすじ】

2001年9月11日起こった同時多発テロ。ボルチモアに住む建築士のボブは、いち早くあることに気づいてニューヨークに向かうが…。

2001年9月11日、ニューヨークから200キロ離れたボルチモアのある街に住むボブは、ベッドから起きてテレビを点けた。すると画面に、世界貿易センタービルに飛行機が衝突した映像が映し出されていた。ボブが、「えっ」と驚いてテレビ画面に食い入るように見ていると、もう一方の世界貿易センタービルに飛行機が衝突して行った。それを見て、建築設計士のボブはある懸念を覚えた。

「もしもし」

「あつ、ボブさん。何ですか、朝っぱらから」

電話に出たのは、事務所の後輩、マイクだった。

「マイク、昨日は徹夜だったのか」

「ええ、今日、フィラデルフィアのクライアントのプレゼンがあるので、その資料を作るのに朝の4時まで、仕事してました。だから、もう少し寝

ていたのに、

何ですか、ボブさん」

「テレビつけてみな」

「テレビ？」

「ボスの部屋にあるだろう」

ボブがそう言うと、受話器の置く音がして、しばらく無音が続いた。「ああ、ニューヨークでテロがあったみたいですね、でもそれが何か」

と、マイクは半分興奮したような声で言った。

「事務所のパソコンに、世界貿易センタービルの設計図面があるだろう、それを

至急、こっちに送ってくれないか」

「世界貿易センタービルの設計図面、そんなものありましたっけ」

「いや、正しくは、世界貿易センタービルと同じ建築法の設計図面だ、俺のドキ

ュメントフォルダーにある。ファイル名はNWC R 2 2 2 5」

「わかりました」

そうしてボブは、電話を切った。

だが、5分も経たないうちに、マイクから

「だめです、インターネットが接続できません」

という電話があった。

それで、ボブはいつもなら時差出勤で、もう1時間遅く出勤するのだが、すぐに

自宅から徒歩で20分ほどの事務所に走って行った。

その間も、ボブの心の中の懸念は深まるばかりだった。

ボブが事務所に着くと、事務所にはマイク一人しかいなかった。

ボブがマイクに尋ねると

「今日は、ボスはニューヨークで、キャサリンとトムはロスに出張ですから」

という答えが返ってきた。それで、ボブは事務所に電話をかけた時、そう早い時

間でもないのにマイクが不機嫌だったのか理解できた。

ボブは、自分のパソコンに向かい、NWC R 2 2 2 5のファイルを開きその中の

数字を拾い、あるプログラムにその数値を打ち込んだ。

マイクがその画面をそばから覗き込み

「何しているんですか」

と尋ねた。だが、ボブは黙ったまま、キーを打ち続けていた。

そして、いきなりボブは立ち上がり

「なんてことだ」

と天井を見上げた。そばにいたマイクは驚いて

「どうしたんですか、ボブさん、今日は朝から変ですよ」

とボブになだめるように言った。

「いや、俺は、世界貿易センタービルの今の強度を計算しただけだ。そうしたら、

強度はマイナスの数値が出た。それも、かなり小さな数字だ。その数値結果が正

しいとすると、世界貿易センタービルはまもなく崩壊する」

それを聞いてマイクは、さらに驚いた表情になった。

「崩壊するって、中にいた人たちはまだ避難の最中だし、それにニューヨークの

消防士が中に入って救出活動をしているって、ニュースで言っただけだよ」

「じゃあ、このことをニューヨークの消防署か役所に早く知らせねば」

ボブはそう言って、受話器を持った。すると、マイクは首を横に振り「連絡はできません。僕もニューヨークにいるボスのことが気になるって、さっき

から何度も電話しているんですけど、電話も携帯もつながらないんです」

と、弱弱しい声で答えた。ボブはしばらく呆然としていたが、居たたまれない気

持ちになって、マイクの自家用車を借りてニューヨークに向かった。そして、それから数時間後、大渋滞の道路上、ボブは車のカーラジオからのニュ

ースで、世界貿易センタービルの崩壊を知ることとなったのである。

世界貿易センタービルが崩壊した数分後、ロスアンゼルスのとある

調査機関のオ

フィス。その幹部の一室で、初老の幹部と女性職員がこんな会話をしていた。

幹部「うちでは、世界貿易センタービルの崩壊は予想できなかったのか」

職員「いえ、テロリストの飛行機が衝突して数分後、うちのデータベースから世界貿易センタービルに関するあらゆるデータを取り出し、解析して、30分後に
は世界貿易センタービルの48時間以内の崩壊は予測できていました」

幹部「では、どうして報告しなかった」

職員「ことが重要なので、直接ワシントンに報告しました。しかし、5分後、ど

こにも公表するなという指示がワシントンからあったので、ボスにも報告しませ

んでした。もつとも、今のところ、そういう決定がどの段階で行われたかはわかりませんが」

幹部「政治的には、惨事は大きい方がいいと言うことか、千人、二千人の人命な

どどうでもいいと…」

職員「何ですか」

幹部「いやいや、無意味な独り言だ」

完

(後書き)

あくまでも、フィクションです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4683b/>

9. 11 偽造の惨事

2011年10月3日19時13分発行